

→ 町まちなみ景観

→ 金沢らしさ

- ◇ [金沢のまちなみについて](#)
- ◇ [昔のまちなみを大切に](#)する
- ◇ 金沢の用水
- ◇ [緑ゆたかな金沢を守る](#)

金沢の用水

金沢を流れる用水は、そのまちなみにうるおいと安らぎをあたえてくれています。昔から生活の水として大切な役割（やくわり）をもち、さまざまに利用されてきました。そして今も変わらないその流れは、わたしたちのくらしと深いつながりをもち続けています。

金沢の用水の特徴（とくちょう）は、他の都市と比べものにならないくらい数が多く、それぞれの用水が家と家の間をぬけて、網（あみ）の目のように流れていることです。また、水がきれい、水の量が多いことも特徴です。

現在（げんざい）、金沢の用水の数は全部で55、長さを全部合わせると約150 kmになるといわれています。

代表的な用水

<辰巳用水（たつみようすい）>

1631年の大火事で、金沢城（かなざわじょう）は大きな被害（ひがい）を受けました。そこで藩主（はんしゅ）は、井戸水（いどみず）にたよっていたお城（しろ）の水を、犀川（さいがわ）から引き入れることはできないかと考えました。しかし、犀川からお城の間には小立野（こだつの）の台地があるのでその工



辰巳用水

事は大変むずかしいものでした。それでも、すぐれた技術（ぎじゅつ）と努力により、約11kmにもおよぶ用水が、わずか1年足らずで完成しました。

<鞍月用水（くらつきようすい）>

いつも多くの人でにぎわう香林坊（こうりんぼう）を流れているこの用水は、1600年代の初め頃に、お城を囲む堀（ほり）としての役割も果たせるようにつくられました。



鞍月用水

<大野庄用水（おおのしょうようすい）>

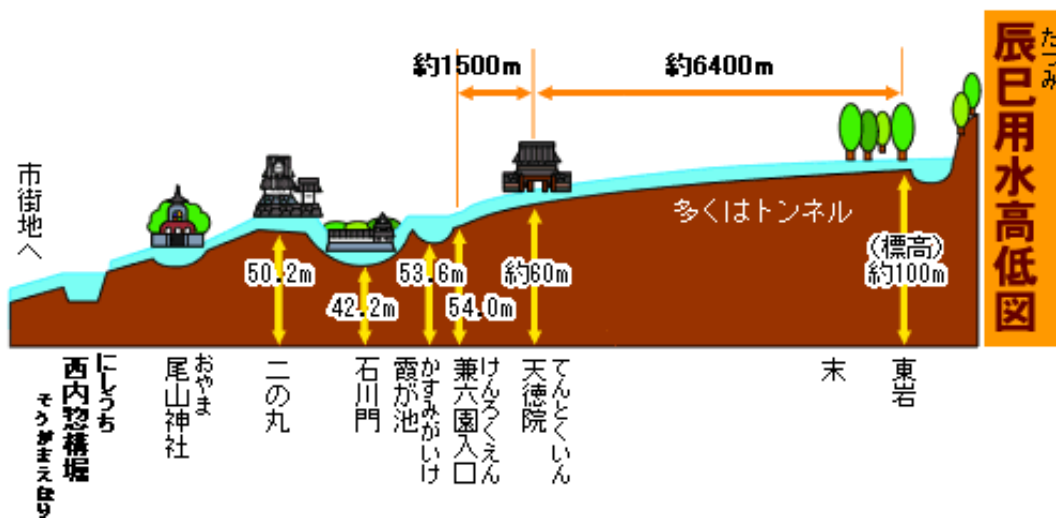
1590年頃につくられた、金沢で最も長い歴史をもつ用水です。お城の建築（けんちく）材料を運ぶためにも使われました。昭和の初めころまでは、水車が回っている風景が見られました。



大野庄用水

【ちょっとコラム】 辰巳用水（たつみようすい）

辰巳用水の特徴は、長いトンネルがほられていること、勾配（こうばい）が20分の1をたもっていること、そして、低地から高地に水を引き上げるために逆（ぎゃく）サイフォン工法を用いていることなどが挙げられます。これほどの工事が約380年も昔に行われたというのは、ほかには例を見ないことです。



辰巳用水高低図

用水の役割

用水は次のような役割により、金沢の伝統（でんとう）をささえてきました。

農業用水	新しく田んぼをつくったり、田んぼや畑をうるおすために使われています。
生活用水	洗濯（せんたく）や水遊びのほか、夏はかごにすいかやうりを入れて冷やしたりしていました。また冬は雪をすてる場所として使われています。
庭園の曲水	武士（ぶし）やゆたかな町人は、用水の水を取り入れて庭に水の流れをつくりました。兼六園（けんろくえん）には辰巳用水の水が流れています。
工業用水	製粉（せいふん）や精米（せいまい）をするための水車を回していました。また、友禅（ゆうぜん）流しなど、染め物（そめもの）を洗うことにも使われました。
防火（ぼうか）用水	火事が起こった時、水をくみ上げて火を消していました。今でも緊急時（きんきゅうじ）の消火用の水として使われています。



用水のこれから

用水を守り、身近な生活環境（かんきょう）を快適（かいてき）なものとするために、1996年（平成8年）に「金沢市用水保全条例（ほぜんじょうれい）」が制定（せいてい）されました。

用水のそばにクラス人たちの協力のもと、用水の再生（さいせい）への取り組みが始まっています。

1. 景色との調和

古いまちなみ、繁華街（はんかがい）、緑のゆたかな場所など、周りの景色にあった用水にします。

2. 開渠（かいきょ）化

道や駐車場（ちゅうしゃじょう）で用水がかくれている所をへらしていきま

3. きれいな水の流れ

一年中水が流れるようにして、定期的に掃除（そうじ）をします。また、鳥や魚がすめる用水にします。

4. さまざまな利用

雪をすてやすくしたり、水をくみやすくします。また、散歩道や水を取り入れた公園をつくれます。

昔の人たちが残してくれた大切な歴史的遺産（いさん）の用水を、これからもしっかりと守っていきましょう。